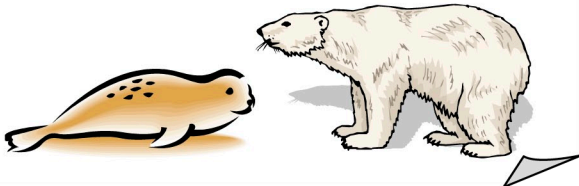


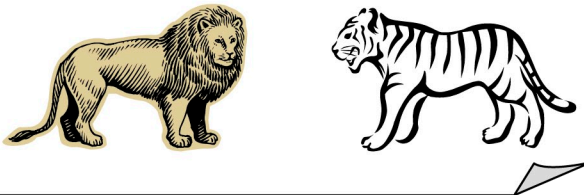
## 喝杯咖啡休息一会儿④

### 助词“で”和“に”

#### A アザラシ 熊 食べた



#### B ライオン トラ 食べた



来看看 A 这则新闻报道。看完后您认为是谁把谁吃了？相信凭直觉，你或许会认为“是熊把海豹吃了”。因为“海豹”与“熊”的体格差距太大，因此可以这么说，自然常识促使您做出了这样的判断。

但是，B 这则新闻报道将让您作出怎样的判断呢？有点儿难说，是吧。到底谁把谁吃了呢？

在日语中，诸如“食べた 熊が アザラシを。”这样的句子，要是动词跑到句首来了，那么语法上将是不正确的。但要是将其说成“アザラシを 熊が 食べた。”或“熊が アザラシを 食べた。”，位于句首的无论是“アザラシを”还是“熊が”，句子的语法都是正确的。因为，按照语法规则，此处助词“が”所表示的是“食べた”这个动作的动作主，而“を”所表示的，则是“食べた”这个动作所涉及的对象。因此，读者能够领会句子所要表达的意思。如此这般，日语并非按照词序来排列语意，而是借助“が”及“を”等助词，来对语意进行判断的。比如上面“海豹”和“熊”之间的关系，要是很清楚谁把谁吃了的话，在会话中可以将助词省略，但是像“狮子”和“老虎”二者，无法判断谁吃了谁的时候，就不能省略助词了。

## コーヒーフレイク④

### ～助詞「で」と「に」～

さて、A のような新聞記事を見たとき、皆さんはどちらがどちらを食べたと思いますか。恐らく、直感的に「熊がアザラシを食べた」と解釈するのではないのでしょうか。「アザラシ」と「熊」では体の大きさや強さが全然違いますから、常識的な判断が働くからだと思います。

しかし、B のような新聞記事を見たときはどうでしょうか。判断が難しいですね。どちらがどちらを食べたのでしょうか。

日本語の場合、「食べた 熊が アザラシを。」のように、動詞が文頭にくることは文法的に正しくありませんが、「アザラシを 熊が 食べた。」「熊が アザラシを 食べた。」のように、「アザラシを」と「熊が」はどちらが先でも文法的に正しいです。助詞「が」は「食べた」主体を表し、助詞「を」は「食べた」対象を表すという規則によって、文の意味が理解できるようになっているのです。このように、日本語の文は、語順で文の意味を判断するのではなく、「が」「を」などの助詞によって文の意味を判断しますから、「アザラシ」と「熊」のようにどちらが「食べた」かが明白な場合、会話では助詞を省略できますが、「ライオン」と「トラ」のようにどちらが「食べた」かが明白でない場合は助詞を省略できません。

日本語の文を理解する上で重要な役割を担っている助詞の使い方が難しいという声をよく聞きます。今回は、助詞の中でも特に、「で」と「に」の使い方について少し考えてみましょう。まず、次の会話を見てください。

高橋さん：「いつもお昼はどうしてるの？」  
木村さん：「社員食堂で [ ] 。」

さて、木村さんは「社員食堂で」の後、何と



- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| (1)日本語教室 ( ) 日本語を勉強する。 | (5)日本語教室 ( ) 週に1回行く。  |
| (2)日本語教室 ( ) 机と椅子がある。  | (6)日本語教室 ( ) 友だちがいる。  |
| (3)日本語教室 ( ) 新聞を読む。    | (7)日本語教室 ( ) 友だちと話す。  |
| (4)日本語教室 ( ) 平仮名を練習する。 | (8)日本語教室 ( ) 世界地図がある。 |

(1)(3)(4)(7), 应该填“で”, 而(2)(5)(6)(8), 则应该填“に”。另外, 再来看看下面的(9)(10)两句。我们也请大家自己造一些句子, 以帮助您学习。

(1)(3)(4)(7)は「で」、(2)(5)(6)(8)は「に」です。さらに、次の(9)(10)も考えてみましょう。いろいろな文をたくさん作ってみてくださいね。

(9)市場で                     。

(10)市場に                     。

比如, 第(9)句, 也可以联想揣测为“野菜を買う”、“魚のセリを見学する”或是“仲買人として働く”等; 而第(10)句, 则可以联想揣测为“毎日仕入れに行く”、“新鮮な商品がある”或“多くの買い物客がいる”等。

此次, 我们看了一下助词“で”和“に”的用法。敬请大家不要畏缩, 我们希望大家能够多说多用, 慢慢习惯、掌握日语的助词。(M)

例えば、(9)は「野菜を買う」「魚のセリを見学する」「仲買人として働く」などが考えられます。また、(10)は「毎日仕入れに行く」「新鮮な商品がある」「多くの買い物客がいる」などが考えられます。

今回は、助詞「で」と「に」の使い方について考えてみました。恐れることなどありません。どんどん使って、日本語の助詞に少しずつ慣れていきましょう。(M)